

2024 シーズン開幕前「サポーターズ・カンファレンス」議事録要旨

日時：2024年2月11日(日) 17:30～19:00

場所：戦災復興記念館 5階会議室

出席：計77名（会場：42名、リモート22名、後援会13名）

後援会：佐々木理事長、三船事務局長、遠藤事務局次長、和田理事ほか

後援会：

- ・本日は、リアル参加、リモート参加含めて80名近い方に参加いただいている。感謝する。
- ・明日初めてのクラブミーティングがある。ずっとサポカンの方に出席してくださいとお願いしてきたが、様々な理由で出席できないと言われ、最終的には、クラブで自主的に「クラブミーティング」を行いたいから別開催にしてほしいとのことだった。
- ・合同開催も提案したのだが、それでもクラブ単独で開催したいとのことだった。皆さんからもその件について質問や意見が多数寄せられているため、その点をクリアにしてからサポカンを始めていきたい。

（クラブがサポカンに出席できない理由）

後援会：

- ・サポカンを合同開催できない理由は後援会 HP で、クラブから回答があった都度掲載してきた。サポカンの開催呼びかけは5月頃から幾度もしてきたが、8月4日に回答のようなものがあり、「まず前段階の対応を進めることが必要と考えており、今すぐの対応は難しい状況です。」という回答だった。
- ・おそらく「前段階の対応」というのはサポーターの処分の関係で、それが進んでいないのでということだったと推測している。クラブの事務方からもそういう説明だったので、間違いないと思う。
- ・次は12月27日に回答があり、参加要請に応えられないのは「不祥事案への対応やシーズン移行に伴う業務繁忙があったこと」、つまり忙しいからできないという理由だった。「それらの内容については開示できない事情があった」ということもあった。加えて、「監督交代等について記者会見やクラブリリースにより代えた」のでそれで充分とのことであった。
- ・その後、サポカン開催を決定してからも引き続き要請してきたところ、2月8日クラブから回答があり、まずサポカンへは「欠席」という回答があった。
- ・続いて、「クラブの独自のクラブミーティングを開催する」、とのことで、「その場ではアンケートを実施しているので集計結果を説明させて頂く」、という内容であった。事実を述べているもので、出席、共催、合同開催ともにできない理由は、その次に書いてあることと思われる。

・市民後援会主催のサポカンへの評価が記載してあり、「個人的な意見や要望に関する質疑を行って」いる、「参加者が少数に限られる傾向が」ある、という理由で一緒にはできないという記載がされていた。個人的な意見ではないカンファレンスというものはどういうものなのか市民後援会としては理解が難しい理由だった。

・おそらく本当に言いたいことはその次のところと思う。「クラブ主催により」「自由な意見交換を行います」ということで、つまりサポカンでは自由な意見交換ができないと言われていた。そうなのだろうか、後援会としては自由な意見交換をするために、広く参加者を募りサポカンを行ってきた経緯があるがご理解いただけなかったようだ。

・また、「意見表明の機会が少なかった皆様の意見を伺う」ためにクラブ主催で行うということだった。

・最後に、クラブが行った「アンケート等でも自由記述で様々な声がある」そうで、サポカンに寄せられた質問・意見についてはクラブとしては概ねそれで答えになる、とのことだった。サポカンに寄せられた事前の質問・意見は、前もってクラブに送付してあり、明日のクラブミーティングに出席される方々は、本当にそこで回答されるかどうか確認していただければと思う。

・後援会としては、引き続きサポカンとの共催・合同開催を続けて呼び掛けていく。

(本日のサポカンの趣旨)

・さて、今日のサポカンは何をやりたいかという、サポーターとして「現状の改善のために何をしたらいいか」ということを話し合いたい。サポカンの前に開催されたサポミでも正直言って八方ふさがりの状況になっていたと思う。それでもなお諦めずに、サポーター活動を楽しんでいくために、前に進める方策を考えていきたい。

・後で後援会の考えることなどもお話したいと思うが、その前に議論のフックになるものとして事前にもお知らせしていた動画をまず観ていただきたい。14分程度である。

(動画：DAZNで昨年9月ごろに放送された「FOOTBALL FLEAKS」の一部)

(Football Freaksの視聴)

(動画をみていただいた趣旨)

後援会：

・先にこの動画を観ていただいた後援会の意図をはっきりさせたい。

・1つの理由は、サポーターとチームの関係性についての外的な動きを共有しておきたいということ。

・昨年、他クラブでもトラブル案件があり、報道ベースでもJリーグの試合運営管理規程が大幅に改定されるのではないかと報じられていた。先ほどサポミの中でも近い話がなされていたが、クラブ独自というよりは、まずJリーグ全体のルールがより厳格に規定されるの

ではないか、と思っている。たとえば、動画にもあったような、チームとサポーターが話し合うというような場面は相当制限されるのではないか。一方で、仙台の場合、サポーターが試合後に監督を呼び出すといったことはここ数年記憶にないので、既になくなってきているのではないか。

- ・2つめの理由。動画を見た感想を聞くと「良い動画だ」という人もいたが、「この内容はおかしい」という人も。反応の振れ幅が大きかった。

- ・チームとサポーターの関係性とチームとクラブ（フロント）の関係性を混同して見ている人もいるように思えたので、まずそれを整理しておきたかった。

- ・今後、どんなルール改定等があるのか分からないが、規程を拡大解釈して、サポーターはクラブに対して意見を言うてはいけない、というような、誤解があってはならないと思う。特に、仙台のようなクラブは、言うべきところは言うていかなければならないと思う。

- ・この前に開催された、「サポミ」の中でも話題になっていたクラブとサポーターの関係性をほぐしていこう、今、誰が見ても決して良い状態ではないので、それをどう解決していくのか、を考えるのに動画の内容をフックに、「あの話はないだろう」とか、「それはわかる」という話などのご意見をいただきながら、進めていきたい。

感想で構わない、ご意見をいただきたい。

（消費者としての行動、サポーターとしての行動）

参加者：

- ・分からないことがあるので、参加者の皆さんにも教えて欲しい。

私たちはサポーターでもあるが、消費者でもあってチケットを購入している。企業に対して不満があれば不買運動をするのは当たり前だと思う。動画では、不満があるなら応援に行かなければよいという話があったが、ここにいる皆さんはほとんどが年間チケットを買っていると思う。クラブへの打撃もなければ、クラブの収入が減るわけでもない。それでは、私たちはクラブに抗議するにはどのような方法があるのか？あれば教えてほしい。

後援会：

- ・私の方で答えるものでもないと思うので、参加のみなさんありませんか？

後援会：

- ・ないようなので後援会から少し感想を。

おっしゃるとおり、サポーターという生き物の中には2面性があると思う。ひとつは「サポーター根性」と言われるもの、もうひとつは「消費者意識」。

サポーター根性というのは、「推し」のためなら何かしたい、と思う気持ち。（サポミでは）梁さんのセレモニーの話があったが、「梁のためなら何かしてやりたい」という推しに対する「推し活」それがサポーター根性だろうと思う。

・消費者意識というのは、少し面倒な言い方だが「支払っている対価に見合うだけの良質なサービスを、末永く・安定的に享受したい」という気持ちだと思う。

・ファン・サポーターという言い方をするが、どちらかというと消費者意識が強い人はファン、滅私奉公の推し活意識が強い人をサポーターと呼べるのではないか。

・経営陣の気持ちがサポーターと離れている、と言われるときの認識は、消費者意識についてウェイトを置いて見ている、サポーター根性については多少理解が弱いのかかもしれない。

質問は、「不買運動」でダメージを与えたいということではなく、経営陣にそうした「サポーター根性」というものに「気づいて欲しい」ということかなと理解しているがどうか？

参加者：

・その通り。ダメージを与えたいというのではなく、気づいてもらうきっかけはないかということ。

(サポーターの気持ちを理解してもらうために)

後援会：

・サポーター根性というのはそういうものではないよ、応援している人たちの心とはそういうものではないよ、ということを知ってもらうためには何かアイデアはありませんか？ということでも良いがどうか。

参加者：

・どうしたら気づいてもらえるのか、というと、サポミで話されたことと連動するのだが、試合のことはさておき、経営陣を批判やブーイングをしたら処分を出す、ということが出されてしまっている。

・これから白幕も規制されるだろうし、明日のクラブミーティングでも規制の話ができるだろうが、それは対応した上で行動しなくてはいけない、と思っている。

・動画をみて、出演者はあまり現場に入らなかったことのない人たちで、クラブ側でもなく、サポーターの応援している側に立ったこともない人たちかな、と思った。

・たしかに、去年のベガルタでも梁選手に拡声器を持ってもらった話とか、スタジアムが空中分解しそうなときに、梁選手が話せばまとまることがあるのが現実。

しかし「ゴール裏だから特別扱い」といったことは仙台ではない。ビデオで問題にしているようなことはあまりない、と思っている。

後援会：

・おそらくそういう声は少なからずあるだろうと思う。

この出演者たちは、結果的にリーグのインフルエンサーの役割を果たしている、とも見える。この人たちがMCをしている番組を見ているひとたちは、「そういうものなんだ」と思

ってしまう。

動画そのものは、こういう流れを作りたいという意図もあると思っている。

(クラブと中心サポ双方の見え方)

後援会：

・少し話をすすめて、現状、クラブの経営陣と中心サポーターの互いの見方を絵にしてみた。

経営陣が見ている絵は、サッカー文化の中にいる自分たちから見て、サポーターの一部はその文化からはみ出している「変な人」たち、と見えているのではないか。

・逆に、サポーターから見える経営陣は、サッカー文化から外れた「変な人」、モンスターと言った人もいるが、そういう見え方がしているのではないか。

先ほどの、「不買運動」といったどうしたら気づいてもらえるか、ということがこの右の絵として見えていることに気づいて欲しいのではないか。

(互いの違いを知ることからスタート)

・互いに見え方が違うことについて、どうしたら良いのか、サポミで3時間も話し合っただろうけど、その上でどう考えるか。

・後援会として提案したいのは、「互いに価値観の“違い”を認識することが最初」だと思っている。後援会と経営陣の話し合いもできていない。継続して申し入れしてきたが応えてもらえていない。理由は分からない。

・話し合いの場というのは、最初から「お互いの意見がまとまる」と思って対話しようかどうか、と思うとできないと思う。そうではなくて、「何が違うのか」ということを互いに認識することがコミュニケーションの第一歩だと思う。

・同じ考えの人とだけ話すこと、自分の耳に痛いことを言うひとを排除した話し合いはコミュニケーションではない、と思っている。

違う意見の話を聞くことの大事さを見失わないで欲しいと思っている。

・サポミからの流れで、中心部のサポも何人か残ってくれているが、その人たちにもお願いしたい。経営陣と考え方が違っているのは分かっている。しかし、話し合いできるよ、となったら受けて欲しい。まず一步踏み出して欲しい。

参加者：

・認識の違いということと言うと、明日のクラブミーティングで出るアンケートについても、あまりに誘導尋問的な、どう考えても「はい」と答えざるを得ない抽象的な内容すぎる。アンケートにもそう書いたが、結果をみると案の定ほとんどが賛成です、ということで、明日も「賛同が多いので」と進めていこうとしていると思う。それでいいのか、怖いなあ、と思っている。

参加者：

・クラブが30周年という時に、これだけクラブとサポーターがバラバラというのは、どうやってJ1に上がるのかな、と思っている。

・対話というのは本当に大事だと思っている。昔サポーター同士でも割れたことがあって、それでも対話をして何とかまとまってきた。

対話の反対って分断だと思っている。分断の行く末は争いや戦争だと思う。

そんな状況の中で、このシーズンを進めていくのか、クラブとして一番恥ずかしい話ではないか。

対話の場があるのなら、ぜひしたい、するべき。

分かり合えなかったとしても、だから対話しないというのはあり得ない。

参加者：

・いまクラブは現状に耳を塞いでいる状態だと思っている。だから、話し合いを拒否しているという認識だ。

そんな状況で、これ以上改善ができるのかな、と思う。だったらサポーターの声を大きくするのか、黙ってクラブに従うのか。そんなことはしたくないが。

後援会：

・今のベガルタの経営陣から見ると、「一部のサポーター」が、いろいろとクラブのやっていることに反発している、という認識。そして、反発しているのは一部の人間であって、アンケートをみても反対は一部の人で、大多数の皆さん賛成ですっていうふうに説明したいし、多分そう思っているんだろうと思う。

・先ほど不買運動の話があったが、「そうじゃない」という意思表示ができるかどうか。経営陣に「一部の人だけが思っている訳ではない」と認識してもらえるかどうか。一部の人だけが思っているだけではないのだ、と思えたら、話を聞かなくてはいけないと思ってもらえるかもしれない。

・一部のノイジーマイノリティーの声ではないということを見せられるかどうかが鍵。

・例えばサポカンやります、イズミティ21を借りましたので来てくださいと言ったら、そこに1000人集まりました、というのならクラブも聞く耳をもつと思う。

それができますか、という話だと思う。

(互いの論理)

・戦争の話があったが、争う国はどちらも自分たちが正しいと思っているのだと思う。良い悪いではなく、そう思っているから争いになる。

そのまま良いのならいいが、そうではないから困る。

・いつまでたっても不幸な状態は終わらない。だから考えが違っていても、まず話し合いは

大事だと思う。チームのためには、停戦という道もある。

- ・スタジアムに行く楽しみが低下している人が少なからずいる、と思う。
- ・ベガルタ仙台の強みだった応援の迫力低下は否めない。強度が下がっている。特にアウェイ戦で明確になっている。「仙台の応援ってこんな程度だった？」と言われ、本当に恥ずかしい状態だった。関係する人たちがチームに申し訳ないと思えるかどうか。
- ・別に圧をかけるとかではなく、皆が当事者意識をもって話し合う必要性をわかってもらうことを呼びかけていく努力をしていくしかないのでは。

(後援会の懸念)

- ・それと、クラブへの不満はさておき、チームとサポーターはしっかり一体となって戦っていくというがまず大事だ、という認識をしっかり共有しておきたい。何とかチームを勝たせる応援の強度を上げていくことができないのだろうか。参加者からもあったとおり、いろんな制約がある、これはどうしようもないということを知った上で、それでもそのなかで強度をあげていくような応援ができないか、と考える。
- ・3月10日、ホーム開幕に合わせたいのだがスタジアムの応援の一体感を取り戻していくためのアイデアを聞いていただきたい。
- ・そのまえに、後援会の危機感を伝える。
- ・フロントと中心サポーター間の不信感や度重なるトラブルは、スタジアムの応援に影響があるという認識。そして、スタジアムに足を運ぶサポーターは「漠然と何とかならないのか」と多くの人が思っている、という現状認識。
- ・市民後援会が懸念しているのは、そんなことが続いていると「底が抜ける時が来る」のではないかという危機感。昨年他クラブをみても、観客数は伸びてこそ当たり前。伸びが鈍化したとか停滞したとか、実質減になり、大口スポンサーが離脱し、強化費が確保できません、そして考えたくもないが成績不振、降格といった状態は、あつという間にやってくることもある。それが「底が抜ける」ということ。
- ・それをサポーターの立場としても止めたい。だから、チームとサポーターは一体となって戦い、成績不振なんていう風を吹き飛ばして欲しいし、昇格を果たして欲しいと思う。

(後援会の提案)

- ・そこで後援会からアイデアを提案したい。
- ・サポーター全員への呼びかけ、これはここに来ている人だけではなく、スタジアムに来る人全員になる。ライトな初めての入場者も含めてなのだが、チームと一体になった応援をするために集中していこうよ、と呼びかけたい。
- ・具体的には、スタジアムに一体となった応援が復活するムード作りを進めていきたい。同じ仙台サポーターとして、同じアイテムを身につける、そして一体で応援する意識を作っていくきたい。

そのために、「シリコンリング」を制作中である。文字は「SHOUT FOR THE GLORY」。震災の翌年、2012年に市民後援会とサポーターが一緒になって作った応援歌CDのタイトル。あの頃のことをもう一度思い出して「SHOUT FOR THE GLORY」ということでベガルタ30周年の今年一年間、みんながこれを腕につけて応援を一体となってしまうか、と呼びかけていきたい。

・後援会も予算が無いので、一個実費100円。ホーム開幕戦から実費で配布してスタジアムを歩いている人はみんなこれを手首に巻いている、という状況から一体感を作れないか、と思っている。

・後援会からの一つの提案なのだが、御意見・感想をいただきたい。

参加者（複数）：

・やりましょう、ぜひやりたい！

後援会：

・やりましょうと言った人たちは3個ぐらい買ってください(笑)。

参加者：

・とてもいい話だと思う。欲を言えば、今抱えている危機感がある中で、それに対してひとことでも、「この危機感を乗り越えていくんだ」というメッセージが盛り込まれていればと思う。

後援会：

・チラシとステッカーを同時に作って差し上げる予定。チラシに「ユアスター一体応援」の呼びかけ趣旨を書いて配布したい。そこに提案があったことも取り入れたい。

先ほど言ったように全体のムーブメントにならないと続かないと思う。そのためにはみなさんが実費で100円出して「はい、これもらった。」で終わっては困る。

賛同してくれる人たちが、「これ知ってる？」って言って広めていって欲しい。

・5000個作る予定。5000個配布できれば、かなりの人が手首に巻いている絵ができる。

スタジアム内のインフルエンサーはみなさんだと思っているので、どんどん影響を与えていってほしい。

(多様性を認めるスタジアムであって欲しい)

参加者：

・良いと思う。個人的な理想のスタジアムって、圧倒的なホームの雰囲気を作っていくこと。それでチームが勝つ、それが最終的な目指すところと俺は思ってチームをずっと応援してきたので、それにつながる一歩であればすごくいいなと思う。さっきの動画でもサポーターの多様性を認めるべきだ、みたいなことを言っていて、サポーターに向けてあれを言ったの

かもしれないが、個人的にはサポーターはみな同じだと思っている。俺の周りで一生懸命応援してくれる人もサポーターだし、指定席で応援していてもサポーターだし、スタジアムに来れなくてDAZNで観てるのもサポーターだと思うし、チームを応援していればみんなサポーターだと思っている。多様性を認めていないのはどっちかといえばクラブだと俺は思っている。別にみんなで応援できればそれでいいと思う。クラブと話す機会があれば、いろんなサポーターがいるわけだからそれを認めるようにしてほしい。コアのまわりは大旗だったりゲーフラ掲げたり、いろんなことをするので試合が観られないっていうのがあったり、ヤジがうるさいっていうのもあるだろうが、それを理解して、笑ってサポーター応援エリアに来てほしい。もうちょっと静かに観たいなっていうサポーターは指定席で、みんなチームを応援できればいいと思っている。

・だから、サポーター応援エリアに来てくれる人は、ものすごく一生懸命声を出して跳ねて応援してほしいし、それ以外の場所で応援する人は、その場所に合った応援をしてもらえばいいのではないかなと思っていて、それでこそ一体感につながるんじゃないかと思う。

後援会：

・ありがとうございます、他に何かあれば。

参加者：

・今、すごくいい話が聞けたし、多様性を認めあうって意味でフロントが多様性を認めてないじゃないかっていう話だとも思う。

・後援会主催の企画、今季スタジアムでリングを実費配布するときに渡すチラシ（ポスターでもいいんだが）に「スタジアムに来るみなさんで考えませんか？」「その多様なサポーターを認め合いましょう」という運動を、もしフロントがわかってくれないようだったら、我々みんながサポーターに発信していくのがいいんじゃないかと思う。チラシにはぜひそういう文言を入れていただければなと思う。

参加者：

・スタジアムの一体感の話で去年どこの試合だったか忘れてしまったが、ホームで試合が始まる時に、コールリーダーが、メインも含めてみんなで一斉に同じ感じで声を出して試合に入ってもらえると嬉しいと言って、その通りメインの方もみんなが声を合わせてバックスタンドの応援と一緒に声を出してくれた。そのときにすごいスタジアムの一体感を感じた。

・自分は、バックスタンドで応援をしていたが、去年やっていて一番いい瞬間だったなと思ったので、この試みをまたぜひホームの試合でやっていただけたらと思う。

後援会：

・他にあるか。

参加者：

・最初の J2 時の勝てない、観客も伸びない時期に、市民後援会がスタジアムでビブスを配布した。当時はまだユニフォームを着ている人も少なかった。ビブスを着用する方も増えスタジアムをゴールドに染めて、2001 年の J1 昇格の盛り上がりと相まって、とても一体感をもてたという記憶がある。シリコンリングは、地味ではあるがファン・サポーターが一つになって応援し、さらにチームと一体となっていい雰囲気スタジアムができるのではないかと昔を思い出した。このシリコンリングに期待している。

後援会：

・ありがとうございます。だいぶ以前のことでお分かりにならない人も多いと思うが、市民後援会創成期前後に、ユニフォームが売れる時期ではなかったもので、上から着る練習着であるビブスをスポンサーを探して 1 万枚制作し、スタジアムで配布して、スタジアムの中をベガルタゴールドに染めるということをやった。その流れを見てのご意見だった。

参加者：

・「分断」や「一体感」が議題に挙がっていると思うが、その中でこのシリコンリングで一体感を出そうというのはいい試みなのでぜひやっていただきたい。
・また、先の話に出ていた「消費者」と「サポーター」とは表裏一体で切り離せない関係だと感じた。その中で「サポーター」としての不満と、「消費者」としての不満と、さらにチームが勝てないことに対する不満と、クラブに対してもっとこうして欲しいという不満とがごっちゃになって整理されていないのはよくないと思っている。「サポーター」としてチームが勝てないことに対する不満が、それがどこかで「消費者」としての不満に変わり、フロント・クラブに対しての不満になっているのが危ないと感じた。そこをごっちゃにしまうと、フロントとしてもどこの意見なのかわからなくなると思う。そのあたりは大切にしていきたいと思った。考えがまとまっていなくて申し訳ない。

後援会：

・大事なことだと思う。ありがとうございます。

後援会：

・皆さんにお配りした意見・質問はクラブにも提出している。明日のクラブミーティングで回答がされると思うので、出席される方は確認して欲しい。後援会も確認して、回答を記載して、後日 HP での公開を予定している。
・その中で市民後援会に対する質問・意見が 2 つある。なお、佐々木個人への質問もあったので、ここで取り上げるのは不適當なので割愛していることとお断りしておく。

・2つの質問・意見に対する回答はこれまでの今日の話で説明しているつもりである。意見の違いがあっても話し合いの場を求めていくこと、スタジアムで一体感を作っていくためのシリコンリングの実費配布という形で小さいかもしれないが行動を起こすことが回答である。

(「サポカン宣言」について)

・これからする話は、後援会内部でも共有していない話である。

クラブもこのサポカンは意識しているはずで、どんな結論が出たのか気になると思う。皆さんのご意見などを聞いていて、サポカン参加者の合意した結論として、全員の合意ではなくても、一定の宣言をまとめて報告したい。

・今日のサポカンを終えて、「サポカン宣言」を公開してはどうかと考えている。その内容は次のとおり。

「サポカン」宣言 (案)

本日のサポーターズ・カンファレンスの意見交換を経て、参加者は次のとおりメッセージを取りまとめました。

ユアテックスタジアムは、ディープなサポーターにとっても、ライトなファンにとっても、非日常的な夢のある空間として、多様な楽しみ方ができる場であって欲しいと願っている。

それを実現するため、クラブも、応援の中心にいるサポーターも、胸襟を開いて互いにコミュニケーションをとり、ベガルタ仙台を応援するファン・サポーター誰もが、わだかまりなく応援できるスタジアムづくりに努めることを期待する。

2024年2月11日

2024シーズン開始前「サポーターズ・カンファレンス」

参加者一同

・最後の参加者一同なのか有志一同なのか、ここはどうしようかと思っている。この宣言の内容は、偶然かもしれないが、今日これまで皆さんから出た意見などを反映できていると思う。明日のクラブミーティングが始まる前にクラブに提出したいと考えている。

全員の統一意見として出すことはどうかと思う、という方がいたら教えて欲しい。

(反対なし)

後援会参加者：

・内容はいいと思う。

・シリコンリングについて補足させていただく。実費100円で5,000個ということだったが、5,000個売り切らないと後援会は赤字になってしまうので、その点からもぜひ協力いた

だきたい。

・クラブの経営層と話をしてみてもすぐには対話ができないと感じている。クラブを動かすためにも、シリコンリングを5,000個売り切ることみんなの思いを伝えて、クラブにあって思わせたい。

・それぞれができることをやっていくこと、みんなが一つになって成し遂げることが大事だと思うので、今回のシリコンリングはぜひ成功させたい。協力をお願いしたい。

参加者：

・クラブにもシリコンリングをつけてもらって、歩み寄る姿勢を見せてもらいたい。クラブにも呼びかけをお願いしたい。

後援会：

・まず我々が圧倒的な人数でシリコンリングをつけてはどうか。その上でクラブを巻き込んでつけてもらうのはどうかと思う。

後援会参加者：

・この宣言を出した時に、クラブから「それは一部の人だ」と言い訳をされないためにも、後援会でいろんな人の話を聞いて賛同を得たということを残すのがいいと思う。

参加者：

・サポミを聞いていて、深いところまで知っているサポーターと、一般と言われている人たちの中での考え方の分断が深くなっているような気がする。クラブからすると「美味しい状況」なのかと思う。よくいう混乱に乗じてと云えばいいのか。何かを変えるときはみんなが一丸となっている時よりは、分断されていて意見が飛び交っている時に変えられてしまうということがどこの世界にもあることかと思う。なので、このシリコンリングの話はとてもいいと思う。さきほどビブスの話もあったが、みんなでお揃いのものを身につけてやりましょうというのは、視覚的に見えるものとしては天皇杯の決勝が最後かなと思う。フロントがどうであれ、サポーターが一体となってチームを応援しているという意思表示を視覚的に見せるのは必要になってくる作業と思うので。

ちなみに、スタジアムで配布するということが、スタジアムに入れない人はどうやって購入すればいいのか？(笑)

後援会：

・通販で買ってください(笑)。

・冒頭の質問に対する回答は、これまでの話の中でしてきたつもり。納得していただけるか。

参加者：

- ・わかりました。

参加者：

- ・先ほどの「SHUT FOR THE GLORY」はゲーフラで使用してもいいのか？

後援会：

- ・大丈夫です。

参加者：

- ・サポカンの議事録はまだ時間がかかると思うが、宣言だけは先に出して欲しい。

後援会：

- ・できるだけ早く HP にアップするようにする。

・他にご意見などがないようなので以上で終わる。

・後援会は今シーズン、北ゲートそばのブースだけでなく、バック側と合わせて2か所ブースを出す予定にしている。ぜひ後援会の活動にも少しだけの時間でもいいのでご参加いただきたい。シリコンリングの実費配布だけでも構わない。お手伝いしていただける方を募集している。

今日はありがとうございました。

(以上、サポカン議事録要旨)

<以下参考>

「サポカン」に先立ち、同日、中心部サポーター主催の「サポミ」が開催されています。

サポミの議事録は公開予定なし、とのことでしたので、市民後援会の参加者が要点をメモしましたので参考にしてください。(内容は主催者確認済み)

○サポーター・ミーティング議事要点

日時：2024年2月11日(日) 14:00~17:00

場所：戦災復興記念館 参加者：約100名

議題

- ① 磐田戦後の事案に関する処分、最終戦セレモニーに関する処分のその後と経緯
- ② 2024 シーズンの応援体制
- ③ 梁クラブコーディネーターの選手引退に伴うセレモニー対応

① について

※磐田戦事案について

- ・昨シーズンを通して、ご心配とご迷惑をおかけしたので申し訳なく思っている。
- ・残り4名が処分通知の到着を待っている状態。
- ・一人、ことを荒立てたくないということで、処分通知を受け入れているものの、威嚇・侮辱行為は行っていないと話している者もいる。

※最終戦の事案について

- ・太鼓を叩いたことが運営妨害ということだったが、曖昧なルール適用だと思っている。
- ・これまで同様の行為で処分されたことはなく、現場で警備員の注意・制止もなかった。他クラブも同様のことで処分はされていない。公平性に問題があるのでは。

② について

- ・中心部が抜けているので、まともな応援ができる状況にはない。
- ・コールリード、太鼓がない応援を可能性の1つに入れ今シーズンの応援方法、スタイルを検討中。方針が決まり次第、サポーターへ周知していく予定。

③ について

- ・クラブ功績者の引退なので、引退試合等が組まれるものと思う。サポーターとして何ができるか検討していく。
- ・お金がかかることもあり、実行委員会を立ち上げ透明性を確保することも検討。
- ・クラブと相談しながら進めていきたい。

以上